

自己評価結果公表シート(平成28年度)

学校法人東粉浜幼稚園

1. 本園の教育目標

本園では、めざす子ども像として「いつも健康でがんばる子ども」「自分から進んでする子ども」「あたたかい心でみんなと力を合わせる子ども」を設定し、子ども達の「おもいやりの心と意欲」を育てることを目標にしている。

2. 本年度重点的に取り組む具体的な目標と計画

全教職員が本園の建学の精神と65年に及ぶ歴史と伝統に立ち返り、新教育要領の内容理解を真摯に受け止め、日々の保育の具体化を図っていくことは極めて重要である。そこで、全教職員の共通理解の場を持ち、目標達成のための具体的な方策・計画を設定することにした。

3. 評価項目の達成及びそのための取り組み計画

評価項目	成果と今後の課題
幼稚園教育要領をふまえ、園児の実態に即した本園の指導計画を作成する。 (A)	1. 前年度の反省と改善点をふまえ、各歳児の指導計画を作成し、見直しをもった決め細やかな、保育をすることができた。 2. 週計画案を基に具体的でわかりやすい日案を各担任が作成し、反省点も必ず記録に残し、日々の保育改善にいかした。 3. 園長・主任・が計画案を点検し、指導・助言を行った。コメントにも励まされ、学年打ち合わせがより密になってきた。
安全管理・安全指導の充実を図る。 (A)	1. 徒歩通園の安全については、担当教諭、当番保護者との連携強化を図り、大きなトラブル・事故なく実施できた。 2. メール配信システムの有効活用により、園から各家庭への発信がより早く周知・徹底するようになった。 3. 地震・津波の発生等、災害時における子どもの安全確保のための訓練を計画的に行い、安全に避難できるように指導を試みた。幼小合同の避難訓練も継続実施している。
子ども理解に努める。 (B)	1. 子ども理解研修会を行い、全教職員で一人ひとりの課題を共有するとともに、いろいろな機会を通して全園児の顔と名まえを覚えるように努めた。 2. 引継ぎがスムーズに行われるように、個人情報保護を視野に入れ、引継ぎ簿の充実を図るようにした。 3. 個々の育ちを大切にしたい全園児の個別指導計画を作成し実践を図るとともに点検・反省の場を定期的に行うようにした。また、保護者懇談の場の充実に努めた。 4. TK式幼児発達検査を保護者の協力のもと実施した。3年間の発達の様子が分かり、子ども理解が深まった。

<p>教職員研修の充実を図る。</p> <p>(A)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 園の課題を明確にし、課題解決を図る実践研究を各学級、ポジションにおいて積み上げていった。 2. 豊かな感動体験ができる園行事を視点とした研修会をその都度持ち、発達段階に応じた取り組みを創造できた。 3. 「これからの幼稚園教育(運営)」を研修テーマに加え、新しい幼児教育のあり方を各自が長期休業中等に、進んで受講できるように、園外研修の充実に努めた。その結果、課題意識が深まり、自らの問題とできるようになってきた。
<p>質の高い保育の提供と国際的な視野に立つ保育の実施に努める。</p> <p>(A)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感性を育む描画造形、音楽教育には、従来通り、専門講師を招聘し、担任も指導技術を磨く場となり、互いの緊張感が見られる有効な場となった。 2. グローバル化・国際化の時代を鑑み、外国の人、文化に親しみを持てるように、発達段階に応じて三歳児より英語指導に取り組んできた。楽しく学ぶ子どもの姿が見られる。 3. 子どもたちが身につけた力を生活発表会などで発揮できる環境・場づくりを工夫する。運動会(組み立て体そう・リレー)題材を工夫した作品展(図画・立体工作)、生活発表会(オペレッタ・合奏)は、ハイレベルでありながらクリアできる子どもの姿に保護者等参加者から絶賛を得ることができた。
<p>地域交流の活性化に努める。</p> <p>(A)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域主催の体験イベントへの保護者・子どもの積極的な参加を促すために、広報活動に力を入れると共に、保護者の要望を聞くなどして、参加者の増加に努めた。2月に実施した園庭雪遊びは、地域・PTA・OBの協力と連携により635人規模で実施でき盛会裡に終えることができた。 2. 本園のチアリーディングクラブと中学校の吹奏楽部によるコラボレーションによる発表を地域運動会で行うなど、子ども達の活躍の場がますます地域に広がってきた。 3. 小学校の運動場・芝生のうえで、からだを思いっきり開放して、遊べる機会を意図的・計画的につくるようにしてきた。
<p>保育環境の整備に努める。</p> <p>(A)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 花壇、屋上菜園の充実等を図り、花や野菜に直接ふれる機会を通して、生命に目を向けさせるようにする。収穫物のシェアと家庭への持ち帰りを学年制で計画・実施できた。 2. 文化とのふれあいを鑑み、児童図書等の整備を図り、積極的な活用を促し、美しく丁寧なことばにふれる機会を多くもつようにしてきた。
<p>子育て支援活動の充実を図る。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 希望者への時間外保育としての預かり保育(平日午前7時30分～午後6時30分)、休日の土曜日には「土曜預かり保育」(午前8時～午後4時)を開設し、「かきかた」活動やイベントへの参加を積極的に行うなど、有職者の子育て支援活動ができた。

(A)	<p>2. 未就園児を対象にした親子教室「ポッポちゃん教室」、「ピョちゃん教室」「園庭開放」、子育てに関する何でも相談窓口「教育相談」の充実を図ってきた。</p> <p>3. 子ども達の遊びの場づくりを意図的・意識的につくろうとしてきた。その一環として保育時間の終了した放課後1時間を「放課後遊びの時間」として取り組んできた。</p>
-----	---

4. 学校(幼稚園)評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

教職員一人ひとりが本園の保育方針を認識し、保育の充実を図る

結 果	理 由	
(A)	<p>教職員全体連絡会・研修会、事前連絡会、学年打ち合わせ会の充実を図り、保育方針の徹底に努めてきた。</p> <p>また、教職員の一人ひとりが事前計画、事後の反省を記録し提出することにより、次の行事、日々の保育に生かせるよう配慮してきた。</p> <p>その結果、教職員の技量(保育力)も高まり、自信を持って保育に向き合うようになってきた。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 28年度は重点課題として、引き続き、子ども達、保護者、社会の実態・ニーズから「子ども達の社会性の育成」を最優先課題にとりあげ、「社会性の発達・育成」の場を日々の保育活動に意図的意識的に取り入れ実践してきた。その結果、人を思いやる・やさしい心が見られるようになってきた。 2. 当初、自分の居場所に不安が大きく、登園を渋っていた子ども達も担任や先生方からの優しい包容力と周りの子ども達の頑張り・優しさ・温もりにふれ、自分から友だちに声をかける等、明るく、たくましく活動できるようになってきた。 3. 「できなかったこと」が、幼稚園で過ごす生活の中で、一つひとつ「できるようになってきたこと」が、子ども達の一番の楽しさ・喜び・うれしさであり、次への意欲・自信につながっていく。どの子も成長著しく楽しみである。 4. 保護者間のふれあいも近所というつながりから、園生活(学級・行事等)での子どもを通してのつながり、PTA活動を通してのつながりへと広がりを持つようになってきた。 <p>また、放課後支援事業の充実により、子ども達は年少・年中・年長という縦集団でのふれあい・協同活動を通してその時間を楽しみにする子が増えてきた。玄関ホールでの親子の会話も和やかであり、見ているほうも楽しい。</p>
<p>全員参加のPTA活動が計画的に行われ、保護者相互のふれあいが深まった結果、園運営においても大変スムーズで、親子ともども協力的で仲がよい関係である。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 園の方針の徹底を図るには、教職員だけでなく保護者にどれだけ認識と協力が図れるかによる。そこで、保護者会、園行事への保護者参加、PTA活動の充実を図ることに努めた。 2. PTA役員の続投が見られ、PTA行事等にかかる引継ぎが円滑・スムーズに運び、保護者間の雰囲気がとてもよかった。次年度もこうしたチームづくりをしていきたいと役員選出もスムーズに運んでいる。 3. 保護者主催の「夏まつり」「バザー」開催にあたっては、役員・学級委員のみならず、強制でなく保護者一人ひとりの 	

(A)	<p>希望を尊重したうえでの一役制を敷くことにした。</p> <p>その結果、役員等の負担も減り、会員相互のふれあいと助け合い・おもいやりが生まれ、全体に和みが見られるようになってきた。また、保護者間のつきあいも広がり、園に出向いてくることが多くなってきた。保護者間、教職員にたいしての挨拶が自然とでき、園内外を問わず、和やかな雰囲気醸し出されている。</p>
-----	--

5. 今後取り組むべき内容

課 題	具 体 的 な 取 り 組 み
社会性を育てる場作りを進める。	<p>今後は、放課後遊びの時間を月2時間設定することにより心身を開放して遊び、そこから生じる友だち間のトラブルに自ら考え、判断し、行動できるように、保育者は、見守り、支援していくことのできる場づくりの工夫をする。</p>
朝ののびのび保育(預かり保育)の周知に努める。	<p>預かり保育時間延長の要望が保護者よりあり、平成26年度より朝、夕刻それぞれ30分、前倒し、延長に踏み切ったが、朝の利用者が少ないのが実態である。次年度もさらに保護者の要望に耳を傾け、周知するようにする。</p>
2歳児・3歳児教育の子ども達との交流をどのように考え、設定していくか検討する。	<p>2歳児・3歳児教育では、お友だちといっしょに遊ぶことを目標に、遊ぶこと(3歳児教育、年少組の保育内容につながるウォーミングアップ的な活動)の楽しさを実感できるようにしてきている。そのなかで一緒に活動する友だちへの意識も芽生え、共に行動することも見られるようになってきた。来年度の入級予定者も増加しキャンセル待ちである。</p> <p>今後は、子ども達の発達段階と実態を勘案して、園内における日常的なふれあい・交流を考えていきたい。</p>

6. 学校関係者評価委員会の意見(参考)

平成28年度第1回評価委員会を平成28年11月1日(中間評価)と平成29年4月26日(最終評価)に開催した。

本年度の本園の取り組みについて

(1) 本年度の教育目標・重点課題・具体的な取り組み

- ・ 本園のよき伝統(徒歩通園・夏祭りの和太鼓・ハイレベルな生活発表会等)が守られ新しい息吹(英語指導・幼小中交流・チアリーディング等)が感じられる幼児教育が行われている。
- ・ 心穏やかなやさしい純粋な子どもが育っている。
- ・ 子どもの持てる力の開発に余念のない取り組みがわかる。

△ 体力は低いようであるが、楽しく元気に園庭で遊ぶ園児の姿が見られるのは、保育の成果といえる。

(評 価 A)

(2) 放課後自由あそびについて

- ・ たくさん子ども達が放課後園庭で楽しく遊んでいる。当初の一定の成果は得られている。曜日の設定も工夫されているのがよくわかる。
- ・ 子ども遊びの姿を目の当たりにできてよいことだと思う。

△ 安全の確保に万全を期すことが一番である。

△ 保護者の手伝いは、責任はとれないからと消極的である。

(評 価 B)

(3) 食に関する指導(弁当給食)について

- ・ 週4回給食、1回手作り家庭弁当は家庭のニーズにあっている。

△ 長期休業中の預かり保育での給食はこのままでよい。保護者は給食を歓迎している。

(評 価 A)

(4) 英語教育について

- ・ 内向的であった子どもが、回を重ねるにつれて、積極的に話すようになってきた。
- ・ 英語の時間を楽しみにしている子どもが育っているように思える。

(評 価 A)

(4) 評価委員会のまとめ

- ・ 園の長期にわたる伝統的な教育活動と新しい風を取り入れ、きめ細やかな教育活動が行われている。次代を担う子どもの基礎・基本づくりに期待している。

(総合評価 A)

平成29年4月26日